

〒170-0004

東京都豊島区北大塚3-21-10

アーバン大塚3階 株式会社ガリレオ
学会業務情報センター内

TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364

e-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

代表者 堀内 成子

一般社団法人

日本助産学会ニュースレター

巻頭言

最近の出来事から・・・助産師として問われた均霽(きんてん)

有井助産所(山梨県甲府市)所長 助産師 有井 澄江

最近のトイレは蓋が自動で開き用を足した後自動で水が流れる。生理現象の処理までも機械任せになる中、自然のお産や育児の追及が可能なのかと疑問を抱く日々、原子力発電政策を反対されてきた研究者、京都大学小出裕章氏の講演において、反原発を叫べばよいだけではなく、まず一人一人が命の使い方を考えることが大切と気付き、「命の誕生に携わる助産師の自分」が、今日を背けてはいけないことがあると猛省した。

私は開業して14年。<人間本来の力>を追及するうちに、助産師として発言する責任を感じる一方「また聞く耳を持ってもらえない」と諦めていたのだ。

例1)ある小児科クリニックの乳児健診。20-25人いる母のうち約半数は母乳で育てていた。その中で人工乳は全く与えない人が約半数、しかし完全母乳育児の人、あるいは、WHOやユニセフが提唱している母乳育児の意義を深く理解している人は0だ。

例2)母子健康手帳の乳児健診で栄養方法を母乳、混合、人工の記入欄がある。ある母子保健の教育者の言葉「今その乳児の成長に必要なものだから省いてもよいのでは」と。私はそう思わない。母乳の方には更に良い方法とは、混合の方には母乳復帰の機会を、人工の方には次の育児や周囲の人々に伝えられるメッセージを与えるチャンスになるだろうに。

例3)クライアントA氏が合併症のため病院分娩となった。A氏は長男の出産立会いを申し出た。医師は「以前も子が立会いをしたことがあったが、泣いてしまって困った」と反応した。長男の立会いは叶い、家族と共に過ごしつつお産することができたが、当初医師に快諾されなかった理由が病院側の物理的などの事情でなく、お産に子を立ち合わせることがその子に良い影響はないという思想があるのではと気になった。子が泣くことはその子の素直な反応、家族の大切なエピソードだ。お産は怖くて忌み嫌うものではなく美しく神聖なものだ。そのエピソードこそ、やれ性教育だ、というものを越えた素晴らしい人間としての教育だと思う。

以上取り上げた例のように、哺乳動物としてあたりまえの人間としての育児が“完全”とか“母乳”という注釈

を付けなくてはならず、ヒューマンケアなのにカンガルーケアで、それを担う助産師の前に“開業している”“お産を扱っている”を付けてイメージされる現状がある。

お産のこと、育児のこと、いつ誰が誰にどのように伝えてゆくべきだろう。私はまず助産師が！こそ助産師の思い上がりだと思っている。哺乳動物として連綿と受け継がれてきたこと、親から子へと伝承できるはずだ。助産師がその親の次でいられるということが、人間が最も基本的な力を活かしている証だ。しかし今助産師に求められていることは多大だ。だから一歩間違えば、助産師がお産と子育ての力、人間の力の足を引っ張ることになる。人間が自然に産んで育てていないという現実なら、日本でお産をする環境、助産師育成、それらのシステムへの提起も必要だろう。

今年度“国際助産師の日”ポスターのキャッチコピー「いまだかつてなかったほど世界は助産師を必要としている」と。自分は何を担えているのだろうか。クライアントとは殆ど妊娠初期から出会い、お産や育児とその後にも携わらせていただいているが、それだけでない。女性を、人間を、取り巻く環境にも責任がみえる。

絵柄はやさしさにあふれているが、そのメッセージは厳しい問いかけだ。助産師は地球を救う役割があると訴えている。しかし応援してくれているとも感じる。未熟者だが恥じないように受けて立とう！

地球の行く末の確認は出来まいが、あと数年すれば私の開業してからの評価が出る。初めて携わらせていただいた方が孫をもつ時が来るからだ。お産のこと、育児のこと、次の世代にどんなふう伝承されるのだろうか・・・その現実を真摯に受け止めよう。

今私ができることは、人間の自然の力に謙虚になり、それを活かすことができるように、助産師としての知恵と技術にみがきをかけること。“お産を扱う開業”助産師として、その現象も対処した方法も、仲間や世間に勇氣を持って伝えること。そして、人間が自然に産む産まれる力、育てる育つ力を何としまもまもってゆくことだ。それこそ女性が、人間が、生きるこの地球という星の均霽を守る助産師としての掟だ。

第26回日本助産学会学術集会のご案内

「助産力を高める！ - 実践から生まれ、実践を育む教育・研究」

第26回日本助産学会学術集会会長 園生 陽子

第26回日本助産学会学術集会は、「助産力を高める！ - 実践から生まれ、実践を育む教育・研究 -」をテーマに、2012年5月1日(火)・2日(水)、札幌コンベンションセンターで開催します。
多くの皆様のご参加を、企画委員・実行委員一同、心よりお待ち申し上げます。

会期：プレコンGRES、市民公開講座 2012年4月30日(月)

学術集会 2012年5月1日(火)・2日(水)

会長：園生 陽子 天使大学大学院 助産研究科 教授

会場：札幌コンベンションセンター

ホームページ：<http://www.c-linkage.co.jp/jam2012/>

●参加登録について(詳細はホームページをご覧ください。)

受付期間：2011年9月13日(火)～2012年3月10日(土)

		事前登録(2012. 3. 10まで)	当日登録
登録費	会員	10,000円	12,000円
	非会員(医療専門職)	11,000円	15,000円
	学生(院生を含む)	4,000円	5,000円
懇親会費	会員・非会員・学生	7,000円	

●プログラム日程表(予定)

【4月30日(月)】

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
					13:30～15:00		15:00～17:00			
					市民公開講座 「地域を超えて心をつなぐー アフリカにおける エイズ患者支援・就学支援・ 自立支援をととしてー」 座長：大石和代 演者：徳永瑠子 大ホール		プレコンGRES 「教育機関における災害時の 支援ネットワークの可能性を考える(仮)」 全国助産師教育協議会北海道・東北ブロック			
						15:00～17:30		プレコンGRES 「新生児蘇生法の実践力を高める」 日本助産学会教育研修委員会		
						15:15～17:30		プレコンGRES 「知らなきや損！最新助産エビデンス」 聖路加看護大学		
								16:00～18:00		プレコンGRES 「認証評価と高等教育の質保証」 日本助産評価機構
		11:00～12:30		13:00～14:00	14:00～15:00					
		新旧理事顔合わせ 207会議室		旧理事会 207会議室	第26回社員総会 (旧評議員会201・202)					

【5月1日(火)学術集会1日目】

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
開 会 式	10:00~10:35	10:40~12:00	12:10~13:10	13:30~15:00	15:15~17:15		18:00~		
	会長講演 「助産力を高める」 座長: 島田啓子 演者: 園生陽子 大ホール	特別講演 「大切なもの」 座長: 近藤潤子 演者: 渡辺和子 大ホール	第28回 学会総会・表彰式	招聘講演 「The Value of Professional Midwifery Partnerships: ICH&JAM」 座長: 園生陽子 演者: ジョイス・トンプソン 大ホール	ワークショップ1 「東日本大震災から見たもの」 座長: 高橋弘子・安藤広子 演者: 八木橋香津代・永沼洋子・中根直子		懇親会		
	10:00~12:00		12:00~17:00		15:15~17:30				
	ポスター貼付		ポスター展示		一般演題				
展示ブース									

【5月2日(水)学術集会2日目】

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
9:30~10:30	10:35~12:25	12:30~13:30	14:00~16:00		15:00~16:30		16:00~		
教育講演 「医学教育における人材育 成のサイエンス・シミュ レーション教育と現場教育 をつなぐ」 座長: 宮崎みち子 演者: 池上敬一 大ホール	シンポジウム 「ローリスク妊産婦のためのガイド ラインをどう作り、どう活かすか」 座長: 福井トシ子・高室典子 シボジスト: 江藤宏美・水上尚典・ 山本詩子・鈴記洋子	ランチョンセミナー	ワークショップ2 「助産教育の世界基準(Global Standards)を 日本でどう生かすか」 座長: 北川真理子 演者: ジョイス・トンプソン・大石時子		閉会 の 辞				
9:30~12:00		13:40~16:00		自由集会 HTLV-I 江藤宏美					
一般演題		一般演題							
9:30~16:00								16:00~	
ポスター展示								ポスター撤去	
展示ブース									

【お問い合わせ先・運営事務局】

株式会社コンベンションリンケージ内
〒060-0003札幌市中央区北3条西3丁目1 札幌大同生命ビル
TEL:011-272-2151 FAX:011-272-2152
Email: jam2012@c-linkage.co.jp

平成23年度 一般社団法人
日本助産学会 学会賞表彰受賞者
表彰関連選考委員会 平澤 美恵子

平成23年度 学会賞受賞者は下記の3名の方です。

日本助産学会功労賞: 多賀 琳子氏(元日本助産師会会長・元日本助産学会理事)

日本助産学会学術賞: 中村 幸代氏(慶應義塾大学看護医療学部 専任講師)

日本助産学会奨励賞: 石田 登喜子氏(前福島県立医科大学看護学部教授・予測不可能な災害発生時の助産実践活動のモデル事業)

海外の助産師の活動

国際委員会 山本 令子

1. ザンビアの助産師に万歳

—ザンビア助産師協会がICMに新加盟—

ザンビア助産師協会は、2015年までに妊産婦死亡を75%減らすことに貢献してきた。わずか4年間で、出生10万に対する死亡率を591から162に減らしたのである。この協会は、ザンビアの助産と母体の健康に、大変重要な役割を果たしてきたといえよう。

ザンビアの助産教育は、以前、基礎看護教育の後、助産の専門教育が行われていたが、新しいプログラムでは、3年の基礎看護教育を受けないダイレクトエントリーで助産教育が実施されている。

また、この協会では、2011年の「国際助産師の日」に「世界は、ますます多くの助産師を必要としている」というスローガンを横断幕に掲げて行進した。このイベントには、ザンビア政府から厚生労働大臣が公式に参加している。

ザンビアの助産師にとってこのイベントは活動の第一歩となったが、今後、この助産師達が、政府が行う助産の政策やプログラムに貢献するということに確信をもっている。

ザンビアの助産師、万歳！

2. もう一つのノーベル賞

—確固としたビジョンをもった助産師に捧ぐ—

将来を見通す力を持ち、世界で最も有名な助産師ともいわれる、Ina May Gaskinさんが 2011年に、もう一つのノーベル賞といわれる「ライト・ライブリフト賞」を受賞した。

1980年に創設されたこの賞は、「現在の、最も切羽詰まっている問題に対し実際の模範的な回答を示した者」を表彰するとして、年に1度、スウェー

デン議事堂で授賞式が行われている。

彼女は、パワフルに主張を唱え、直感を活かしてきた行動家であり、世界中の女性たちに自分で出産の方法を決める権利を広めるような活動を行ってきた。

彼女のことは、「アメリカで、存亡の危機にある千年の歴史を持つ専門職(=助産師のこと)のパイオニアであり、科学的なエビデンスと自然療法に基づいた彼女自身の多くの経験を分析したものを組み合わせている。また、このままではいけないと思っている助産師にとっては、目標である」と評されている。

彼女は受賞時に、「母親になることや出産に低い価値を置くような社会は、そのことにより、社会からしっぺ返しを受けるであろう」「出産時によいケアを受けることが、社会に決定的な違いを生み出すことになる。だから、母児に可能な限りよいケアを提供することに価値があり、これが人生に大きな影響を与える」と語っている。

(ICM ニュースレター, Winter 2011より抜粋)

ICMアジアパシフィック会議2012 ～ハノイ～
ツアーのご案内

国際委員会 加納 尚美

ICMアジアパシフィック会議2012が2012年7月24日(火)～26日(木)にベトナムのハノイにて開催されます。

これまで開催の香港(2003)・マニラ(2006)・インド(2009)に引き続きましてご出席プランを企画致しましたのでご案内申し上げます。多数のご参加をお待ち致しております。

◆参加費:

122,000円+税(燃油、空港税)約¥20,500
お1人部屋使用差額(¥9,000)

◆会議参加について:

- 1) 演題募集締切日:
2012年2月15日(水)
- 2) 参加登録費
2012年3月31日まで 350USドル
2012年5月31日まで 400USドル
2012年7月25日まで 450USドル

◆航空会社:

ベトナム航空 *日本航空をご利用希望の場合はお問い合わせください。

◆宿泊先:

Melia Hotel(会場ホテル)

◆日程:
東京(成田)発着

	日時		時間	便名	食事
1	7月23日(月)	成田 発 ハノイ着	10:00 14:25	VN311	機内 機内
2	7月24日(火)	ハノイ滞在			朝
4	7月26日(木)	ハノイ滞在			
5	7月27日(金)	ハノイ発 成田 着	00:05 07:25	VN310	機内

大阪(関空)発着

	日時		時間	便名	食事
1	7月23日(月)	関空 発 ハノイ着	10:30 14:05	VN331	機内 機内
2	7月24日(火)	ハノイ滞在			朝
4	7月26日(木)	ハノイ滞在			
5	7月27日(金)	ハノイ発 関空 着	00:05 06:40	VN330	機内

◆お問い合わせ先:

(株)ケイ・コンベンション(担当:荒木憲治・森藤夫)
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-7-313
TEL:03-5367-2382 FAX:03-5367-2187
E-mail:araki-ken@k-con.co.jp

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10
アーバン大塚3F
TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364
E-mail:ebine@galileo.co.jp

一般社団法人日本助産学会
平成23年度社員総会のお知らせ

庶務担当理事 砥石 和子

代議員各位

一般社団法人日本助産学会の平成23年度社員総会(旧:評議員会)を下記のように開催いたします。

今回の社員総会は、平成 23 年度まで任期の代議員の方にお集まりいただきます。多事多端の時期ではございますが、ご出席のため万障お繰り合わせさせていただきますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本助産学会
理事長 堀内 成子
記

1. 日時:平成24年4月30日(月・祝)14:00~15:00
2. 会場:札幌コンベンションセンター
201・202会議室
3. 議題
1)平成23年度活動報告・収支決算報告審議
2)平成24年度事業計画案・収支予算案審議
3)第4回学術集会(第28回学術集会)会長の選出

一般社団法人日本助産学会
第26回学会総会 開催のお知らせ

庶務担当理事 砥石 和子

会員各位

一般社団法人日本助産学会の第26回学会総会を、下記のように開催いたします。

万障お繰り合わせの上ご出席くださいますよう、ご案内いたします。

一般社団法人日本助産学会
理事長 堀内 成子
記

1. 日時:平成 24 年 5 月 1 日(火) 12:10~13:10
2. 会場:札幌コンベンションセンター
第1会場(大ホール)
3. 議題

- 1)平成 23 年度活動報告・収支決算報告
- 2)平成 24 年度事業計画案・収支予算報告
- 3)表彰式
- 4)第4回学術集会(第28回学術集会)会長の承認

*総会要綱は、当日会場入り口にて受け取り、学会総会に臨んでください。

学術集会開催中、会場の日本助産学会事務局受付コーナーにて、年会費(平成24年度及び未納年度)の受付等しておりますのでご利用下さい。

ICM募金について

一般社団法人日本助産学会事務局

本学会では下記の募金を受付けています。
皆様の暖かいご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

★ ICMセーフマザーフード基金 ★

世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

郵便振込 振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会 ICMセーフマザーフード基金

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

郵便振込 振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

事務局からのお知らせ

お知らせ事項	内容	方法・連絡先 等
<p>次年度 平成24年度 年会費 (10,000円) 納入について</p>	<p>本学会は皆様の会費により運営しています。円滑な事業推進のため、お早目の納入をお願いいたします。郵便振込み先および銀行振込み先は、右記の通りです。</p> <p>口座引き落としご利用の方は、4月6日が引落日です。口座預金の残高に余裕があることを、ご確認をお願いします。振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先にE-mailかFAXでご連絡ください。</p> <p>学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。</p> <p>会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、お問い合わせ下さい。</p>	<p>郵便振替・銀行振込の方は4月末までに、下記口座に氏名・会員番号等を通知のうえお振込みをお願いします。</p> <p style="text-align: center;">★郵便振込★</p> <p>口座記号番号:00120-2-763540 加入者名:一般社団法人日本助産学会(シャ)ニホンジョサンガックカイ <u>通信欄に会員番号と納入年度を明記</u></p> <p style="text-align: center;">★銀行振込★</p> <p>ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(セ'ロイチキュウ)店(019) (当座) 0763540 一般社団法人日本助産学会(シャ)ニホンジョサンガックカイ <u>氏名と会員番号を明記</u></p>
<p>登録情報の 確認・変更 について</p>	<p>会員登録状況の確認や住所・所属等の変更につきましては、オンライン会員情報管理システムのご利用が便利です。右記のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。ID・パスワードがご不明の方は事務局までお問い合わせください。</p> <p>なお、従来通り書面の郵送、FAX、メールでの変更も受け付けておりますので、オンラインシステムをご利用されない方は書面等でのご連絡をお願いします。</p> <p>学会誌等送付にはメール便を利用しますので、転送手続きを行っても届かない場合がありますので変更手続きは必ず行ってください。また、ご自宅ポストの表示がない場合も届きませんので、表示も併せてよろしく願います。</p>	<p style="text-align: center;">【登録情報の確認・変更】</p> <p>オンライン会員情報管理システム: https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM</p> <p>Fax・はがき・Email等でも変更は可能ですので、明記してお知らせ下さい。書式は問いませんが、本学会ホームページから、「変更・退会届」の書式がダウンロードでき、ご利用いただけます。</p>
<p>退会について</p>	<p>退会希望につきましては、その都度必ずお早めにお知らせください。次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届のご連絡をお願いします。</p> <p>退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意くださいののですが、会費納入後の退会の会費についてはお返しできません。納入年度の学会誌等は送付します。</p> <p>何卒ご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。</p>	<p style="text-align: center;">【連絡方法】</p> <p>Fax・はがき・Email等に明記してお知らせ下さい。書式は問いませんが、本学会ホームページから、「変更・退会届」の書式がダウンロードできご利用いただけます。</p>
<p>学会誌 バックナンバー 販売のお知らせ</p>	<p>* 日本助産学会誌バックナンバー: 第20～24巻 2,500円/部、第25巻3,500円/部 送料は申込者負担です。 在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。</p>	<p style="text-align: center;">【申込方法】</p> <p>本学会ホームページから申込書をダウンロードして、FAX・E-mailに添付送信してください。</p>

☆上記についてのお問い合わせ先 ☆

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚3階
株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内
一般社団法人日本助産学会
TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364
E-mail :g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp
JAMホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、
ご協力のほどよろしく
お願い申し上げます。